

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	薬業科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	日本薬局方・製剤学Ⅲ		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	前期 月4限	教室名	第4校舎502教室
担 当 教 員	川原 一仁	実務経験と その関連資格	医薬品製造管理者 薬剤師			
《授業科目における学習内容》						
医薬品・医薬部外品・化粧品等の業界で活躍されることになる学生の皆さんは、厚生労働省が定めた多数の剤型を覚えておかなければなりません。そこで、この科目ではそれ江ぞれの剤型の定義や、そのざいけいとすることによって効果がどのように変化するか、また、その剤型で名kればならない理由などについて、解析していきますので、しっかりと聞き、理解してください。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験 70点 出席点 20点 平常点 10点(小テスト)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
第7版 日本薬局方要説 広川書店 (ISBN978-4-567-01127-3 C3047) 並びにオリジナルプリント						
《授業外における学習方法》						
講義で解説したところについて、テキスト、ノート、配布資料などをしっかりと見直し、自分なりに説明できるように努力しましょう。						
《履修に当たっての留意点》						
初めて耳にするような専門用語が学Ⅲ出てきますが、皆さんは将来、そのような業界で専門家として働くので、しっかりと覚えてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	この科目を学ぶ意図・目的は何かを中心に理解することができ、この講義に積極的に取り組めるようになることができる、	テキスト		
		各コマにおける授業予定	製剤総則とは何かを述べ、テキストp89-93の範囲についての内容を講義で解説し、製剤とは、またその分類法について解説する、			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬の剤型の違いによって作用が異なることを知ることができる。	テキスト	次回講義内容の予習をしておく	
		各コマにおける授業予定	投与経路の違いによる吸収の違いがどう異なるのかについての講義をおこなう。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	経口投与する製剤について理解することができる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく	
		各コマにおける授業予定	経口投与する製剤のうち、錠剤、顆粒剤、散剤についての解説を行う、			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	経口液剤について理解することができる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく	
		各コマにおける授業予定	経口液剤であるエリキシル剤、懸濁剤、乳剤、リモナーデ剤、シロップ剤、経口ゼリー剤についての解説を行う。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	口腔内に適応する製剤について理解することができる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく	
		各コマにおける授業予定	口腔内に適用する製剤であるトローチ剤、舌下錠、バッカル錠、付着錠、ガム錠、口腔用スプレー剤、口腔用半固形剤、含嗽剤についての解説を行う。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	第一回 確認小テストの実施で自分の理解・不理解が確認できる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	第1回講義から第5回講義の内容についての確認試験を行い、解説を行う。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	注射により投与する製剤について理解することができる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	注射により投与する製剤のうちの注射剤、凍結乾燥注射剤、粉末注射剤、充てん済みシリンジ剤、カートリッジ剤、輸液剤、埋め込み注射剤、持続性注射剤、透析に用いる製剤についての解説を行う		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	気管支・肺に適用する製剤について理解することができる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	気管支・肺に適用する製剤としれ吸入剤、吸入粉末剤、吸入液剤、吸入エアゾール剤について解説を行う		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	目・鼻・耳に投与する製剤について理解することができる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	目に投与する製剤として点眼剤、眼軟膏剤、耳に投与する製剤として点耳剤、鼻に投与する製剤として点鼻剤、点鼻粉末剤、点鼻液剤についての解説を行う		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	直腸・及び膣に投与する製剤に理解することができる	テキスト	次回講義内容の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	直腸に適用する製剤として、坐剤、直腸用半固形剤、注腸剤、膣に適用する製剤として膣錠、膣用坐剤についての解説を行う		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	皮膚などに適用する製剤が理解することができる①	テキスト	次回講義内容の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	皮膚などに適用するとして外用固形剤、儀容散剤、外用液剤、リニメント剤、ローション剤についての解説を行う		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	皮膚などに適用する製剤を理解することができる②	テキスト	次回講義内容の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	スプレー剤、外用エアロゾル剤、ポンプスプレー剤、軟膏剤、クリーム剤、ゲル剤、貼付剤として、テープ剤、パップ剤についての解説を行う		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	生薬製剤について理解できる①	テキスト	次回講義内容の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	生薬関連製剤として、エキス剤、丸剤、酒精剤、浸剤・煎剤についての解説を行う		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	生薬製剤について理解できる②	テキスト	今までの講義についてまとめノートを作成しておく
		各コマにおける授業予定	生薬製剤として茶剤、チンキ剤、芳香水剤、流エキス剤についての解説を行う		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	最終確認をすることで理解度をお確かめることができる	テキスト	今までの講義についてまとめノートを作成しておく
		各コマにおける授業予定	第1回講義から14回目までの内容についての全体についての確認試験を実施し、解説を行う、		